

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	0991000043		
法人名	有限会社ワイズプランニング		
事業所名	グループホームこころ黒羽		
所在地	栃木県大田原市大豆田468-4 (電話) 0287-54-3241		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年11月11日	評価確定日	平成20年12月26日

【情報提供票より】 (平成20年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	19人	常勤11人(うち兼務11人), 非常勤8人, 常勤換算17.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道光熱費—18,000円</li> <li>共益費—9,000円</li> <li>理美容代, おむつ代—実費</li> </ul>
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(60,000円)	有りの場合償却の有無	有(退所時)
食材料費	朝食 300円	昼食 550円	
	夕食 550円	おやつ 円	
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月23日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	4名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 81歳	最低 70歳	最高 92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	車田医院, 高橋医院, 鈴木歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、小規模多機能型居宅介護事業所との合築型になっている。清流が近くにありながら、少し歩けばスーパーや郵便局などがある環境にある。お茶会に地域の方を誘ったり、おすそ分けなどをもらったりといった肩肘張らない地域との関係をつくってきている。毎朝のほか、昼食後にも毎日職員ミーティングを行っており、入居者(利用者)の状況やその時点での課題を共有し、迅速な対応を図っていくよう努めている。開設から2年半が経過し、入居者や職員も「馴染んだ雰囲気」になってきているように見受けられた。小規模多機能型居宅介護事業所との合築での利点・不利点などを踏まえて、入居者個々への個別的支援を充実させていこうと考えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議で報告し、また職員会議で話し合っ改善に努めており、広報誌の発行などを行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回までは自己評価を実施する際に職員から口頭で意見等を聞いていたが、今回は書類で提出してもらうようになり、職員の意識も高まったと感じている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族、民生委員、歯科医院長、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。会議では、ホーム(併設の小規模多機能型居宅介護事業所も合わせて)の利用実績や行事の報告、入居者(利用者)の状態やケアの相談等をし、助言をもらっている。会議録は誰でも見られるようにしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が訪れた際や管理者が電話をするなどして暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、今年から写真をふんだんに使った広報誌「黒羽だより」を発行した。預かり金は帳簿管理をして家族に報告している。職員が変わったときには家族が訪れた際などに紹介している。家族会はないが、運営推進会議に全家族に参加を呼びかけ、多くの家族に参加してもらい意見等を聞く機会をつくっている。管理者は家族に電話番号を伝えてある携帯電話を携行しており、家族がいつでも気軽に相談をしたりできる環境をつくっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	定期的に「お茶会」を開催して地域の方を誘ったり、地域の祭りや花市などに参加するなど交流を図っている。地域の方と挨拶を交わしたり、野菜や果物などのおすそ分けをいただいたりとしずつホームへの理解が深まっている。廃品回収など地域の活動などにも協力をしている。自治会に加入したいと考え、働きかけをしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「生命の尊厳」「豊かな老いと生きがい創りの喜び」「共に感謝の心」を事業所の理念としている。特に「共に感謝の心」は人間関係の大切さを謳っており、地域密着型サービス事業所として大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有化・浸透を図るために理念を毎朝唱和し、また職員が交代で理念・方針などにそった言葉を読み上げるなどして意識の統一化を図っている。事務室に理念及び月ごとの行動目標を掲げている。開設から2年半が経過し、職員の定着・落ち着きが見られるようになり休みの日でも全体会議に出てくるなど、職員が自発的に日々の実践に取り組むようになってきている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	定期的に「お茶会」を開催して地域の方を誘ったり、地域の祭りや花市などに参加するなど交流を図っている。地域の方と挨拶を交わしたり、野菜や果物などのおすそ分けをいただいたり、少しずつホームへの理解が深まっている。廃品回収など地域の活動などにも協力をしている。自治会に加入したいと考え、働きかけをしている。	○	地域の方々との普段づきあいは徐々に深まってきた。ホームとしては、自治会に加入することで、地域との付き合いが更に深まると考えている。店舗や郵便局などが近くにある特性も活かして、今後も入居者の地域での生活を支えていくための環境づくりに取り組んでいくことに期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議で報告し、また職員会議で話し合っ改善に努めており、広報誌の発行などを行っている。記録の書き方や入居者個々への対応などの改善を図りつつある。前回までは自己評価を実施する際に職員から口頭で意見等を聞いていたが、今回は書類で提出してもらうようになり、職員の意識も高まったと感じている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族、民生委員、歯科医院長、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。会議では、ホーム（併設の小規模多機能型居宅介護事業所も合わせて）の利用実績や行事の報告、入居者（利用者）の状態やケアの相談等をし、助言をもらっている。会議録は誰でも見られるようにしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内の事業所の連絡会やケアマネジャーの連絡会などに参加している。また、管理者（兼ケアマネジャー）が窓口になって市への報告や相談事などを行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族が訪れた際や管理者が電話をするなどして暮らしぶりや健康状態などを報告している。また、今年から写真をふんだんに使った広報誌「黒羽だより」を発行した。預かり金は帳簿管理をして家族に報告している。職員が変わったときには家族が訪れた際などに紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、運営推進会議に全家族に参加を呼びかけ、多くの家族に参加してもらい意見等を聞く機会をつくっている。管理者は家族に電話番号を伝えてある携帯電話を携行しており、家族がいつでも気軽に相談をしたりできる環境をつくっている。	○	運営推進会議に多くの家族に参加してもらったり、電話番号を伝えてある携帯電話を管理者が携行したりと家族の声を大切にしている様子がうかがえる。入居者への個別的支援の充実を考えていることから、今後も家族が意見や要望をしやすい環境を継続・充実していくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設からこれまでに職員の離職などもあったが、このところ職員の定着化が図られつつある。離職等で職員の交替があるときには周りの職員がカバーしながら入居者への影響を防ぐよう配慮している。毎朝・昼にミーティングを行っており、その時々入居者の状況を職員全員で共有し、支援の仕方を考える仕組みもつくっている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は外部の研修にはできるだけ職員を参加させたいと考えており、外部研修の後は資料の回し読みなどを行っている。認知症介護実践研修などは交替で参加するようにしている。毎週水曜日に1時間程度の内部学習の時間をもっている。	○	職員の定着化も図られつつあり、また入居者個々への個別的支援を充実させていきたいという思いがあり、ミーティングで情報や意識の共有を図る仕組みもあることから、チームづくりという意味でも一人ひとりの職員が成長していけるような研修等の仕組みを整えていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事業所の連絡会やケアマネジャーの連絡会などに参加して情報交換などを行っている。見学や視察などの受入も行っている。職員は研修に参加したときに他事業所の職員との交流はあるが、定期的な交流の機会などは少ない。	○	職員の研修としての意味合いやモチベーションの向上といった意味でも、今後、職員が他事業所と交流して質の向上を図っていけるような環境を整えていくことに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が事前にホームに訪れることができなかった例もあるが、入居当初は本人の不安を軽減するために声かけをして「大丈夫ですよ」というメッセージを送ったり、他入居者との関係づくりや食事時の席の位置に配慮したりしながら徐々に馴染めるように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「お世話している」「指導する」といった縦の関係ではなく、同じ物と一緒に見るといった横の関係を大切にしている。一人ひとりのできる力や生活歴等に配慮しながら家事などを入居者と職員が共同で行うようにしている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中から思いを探ったり、センター方式のアセスメント様式の一部を使ったりしながら本人の希望や意向の把握に努めている。	○	個々の職員が同じ意識を持ち、入居者との会話等の中から今の思いや意向を把握していきたいと考えている。ミーティングの機会なども活かしながら、その人らしさを探り支援に活かしていくための研鑽を期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向を踏まえ、職員の意見なども聞き、必要に応じて事業所外の人情報も取り入れて本人本位の介護計画作成ができるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的には6ヶ月を目安にモニタリングを行いながら介護計画の見直しをしており、また必要に応じて随時見直しをしている。毎朝・昼にミーティングを行っており、その日その都度入居者の状況に応じた支援ができるよう努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定は受けていないが、小規模多機能型居宅介護事業所と合築ということもあって看護職がおり通院の支援をしたり、少人数で買い物に出掛けたりと入居者の要望や家族の都合に合わせた柔軟な支援に努めている。		

グループホームこころ黒羽


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞いたうえで医療機関での受診を支援している。通院は原則的に家族が行うこととしているが、必要に応じて事業所の看護職が間に入って適切な医療が受けられるよう配慮している。道路を挟んで協力医療機関の医院がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族と連携しながら、状況に応じ、またホームとして最大限の努力をして重度化や終末期を支えたいと考えている。一方では、本人の力があるうちに適切な転居先に転居した方が良いのではという思いもある。夜間の対応や入浴、医療的処置が多くなったときなどの対応が難しいと考えている。	○	本人や家族の人生設計やホームとしての資源の確保、職員の育成などを検討していくうえで、基本的な方針を話し合い、共有していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個人記録などは事務室で保管し、持ち出しをしないようにするなどプライバシーへの配慮を行っている。入居者への言葉かけや態度についても本人の誇りを損なわないような対応を心掛けている。職員は入居者に対して笑顔で穏やかに接していた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	通いが基本である小規模多機能型居宅介護事業所と合築である難しさも感じているが、一人でゆったりしたい方には集団的に行うような活動への参加を無理強いしないなど一人ひとりのペースにあわせた支援を心掛けている。一人になれるような場所にいすも用意しており、昼食後にそこで過ごす方もいた。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事については厨房スタッフが作っている。庭に家庭菜園があり収穫物が食卓に並ぶこともある。入居者のできることに配慮しながら料理の下ごしらえや片付け、食器・テーブル拭きなどを行っている。職員も入居者と話をしながら、一緒に同じ物を食していた。	○	昼食は食数が多くなるため現在は厨房スタッフが主に調理を行っているが、管理者からは「できれば一緒に作りたい」「朝や夕方ならば一緒に作れるのではないか」ということも聞かれたので、本人の力を活かすという意味でも前向きに検討していくことに期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴する方が多い。遅番勤務者や宿直職員がいることで、就寝前に入浴などこれまでの習慣に合わせた入浴の支援も行っている。足浴なども取り入れている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることや習慣を考慮しながら、掃除、食事の準備、洗濯物干し・たみなどを一緒に行っている。また、声かけをしながら、習字、花、畑仕事、草取り、散歩など楽しみ・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候を勘案しながら、散歩や買い物などに出掛けている。リビング続きでウッドデッキもあり、掃きだし窓から外に出て外気に触れることもできる造りになっている。行事的な外出・外食の機会もつくっている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が2ヵ所あり、片方は施錠しているがもう一方は鍵をかけておらず夜間以外は自由に外にできるよになっている。また、リビングの掃きだし窓からウッドデッキにできるよにもなっている。		

グループホームこころ黒羽

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施することとなっており、夜間を想定した訓練も行っている。リビング続きのウッドデッキにはスロープがつけられており避難路の確保もされている。避難訓練の際に近所の方を誘っている。お茶会の誘いを兼ねて近隣に有事の際の協力を依頼しており、また避難場所として少し離れた場所にあるホテルの協力を得られる体制になっている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師である厨房スタッフがおり、栄養バランスに配慮したメニューづくりをしている。食事摂取量を確認・記録し、水分は摂取回数を確保して適切な量が摂れるよう配慮している。毎月1回、体重測定を行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や習字、作品など入居者（利用者）の手によるものを飾っている。リビングのテーブルイスのほか、畳コーナーが2カ所あり、またソファセットなども置いている。玄関は2カ所あるが、ホーム側の玄関にイスを置いて一人や少人数で過ごしたい時の場所を確保している。音や光は適度に調整されており、空気のとどみや気になる臭い等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込むものに個人差はあるが、できるだけ以前の生活で使っていたもの（タンス、ベッド、写真など）を持ってきてもらうようにしている。本人の習慣を大切にして年代物の機械を持ち込んでいる方もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。